

## 国際交流について

理事長 森 勉

1・5トラックの国際交流とは、国家間の公式の交流と民間の自由な交流の中間の交流である。例えば、退役軍人同士の交流のように国益を背負ってはいませんが、政治からはやや自由な立場での交流である。この様な交流はそれぞれの専門分野における相互理解の促進等が意義があり、特に政治的対立等で国家間の交流が制限される場合には極めて重要である。

自衛隊の退職者による交流は、自衛官退職者には予備役・恩給制度等がなく、外国の退役軍人とはその立場が大きく異なるため、それほど活発ではない。陸自は退職者の組織が無いため外国の陸軍退役軍人との交流は皆無である。海自の退職者は米海軍の退役軍人との交流があり、空自の退職者は米空軍と韓国空軍の退役軍人との交流がある。

この他に、安全保障懇話会は韓国軍退役将官（星友会）と2013年から隔年で相互に訪問するという形式で交流している。中国政経懇談会は陸・海・空自の退職将官6〜7名の訪中団を毎

年約40年間継続して派遣している。日本郷友連盟はかつて韓国在郷軍人会と交流をしていたが諸般の事情で立ち消えになった。最近韓国側から再開の要請があったと聞いている。

私は、平成22年、中国政経懇談会第33次訪中団の団長として中国を訪問した。中国では北京オリンピックに続き上海万博が開催されており名目GDPにおいて世界第2位になることが確実視されていた。訪中直前に中国海軍は装備の近代化と作戦能力の向上を誇示するかのよう、沖繩本島と宮古島間の海域を航行して太平洋に進出し艦隊訓練を実施した。日中の防衛関係の交流が冷え込む中の訪問であったが、人民解放軍の専門家との安全保障フォーラム、第24航空兵師団視察、旅順戦史研修、上海万博視察等大変有意義であった。

東アジアの隣国との交流に当たって友好親善の実をあげるためには相互理解が不可欠である。隣国ではあるが異なる民族・歴史・文化・伝統を保持していることを相互に理解し尊重しなければならぬ。又、表現の自由が制約される国あるいは自己主張の強い国との交流に当たっては、1・5トラックは1では無いが、限りなく1に近いということに、大いなる忍耐力と不屈の闘志を必要とする。